

大野城市の最高点“牛頸山”周辺ハイキング(説明資料)

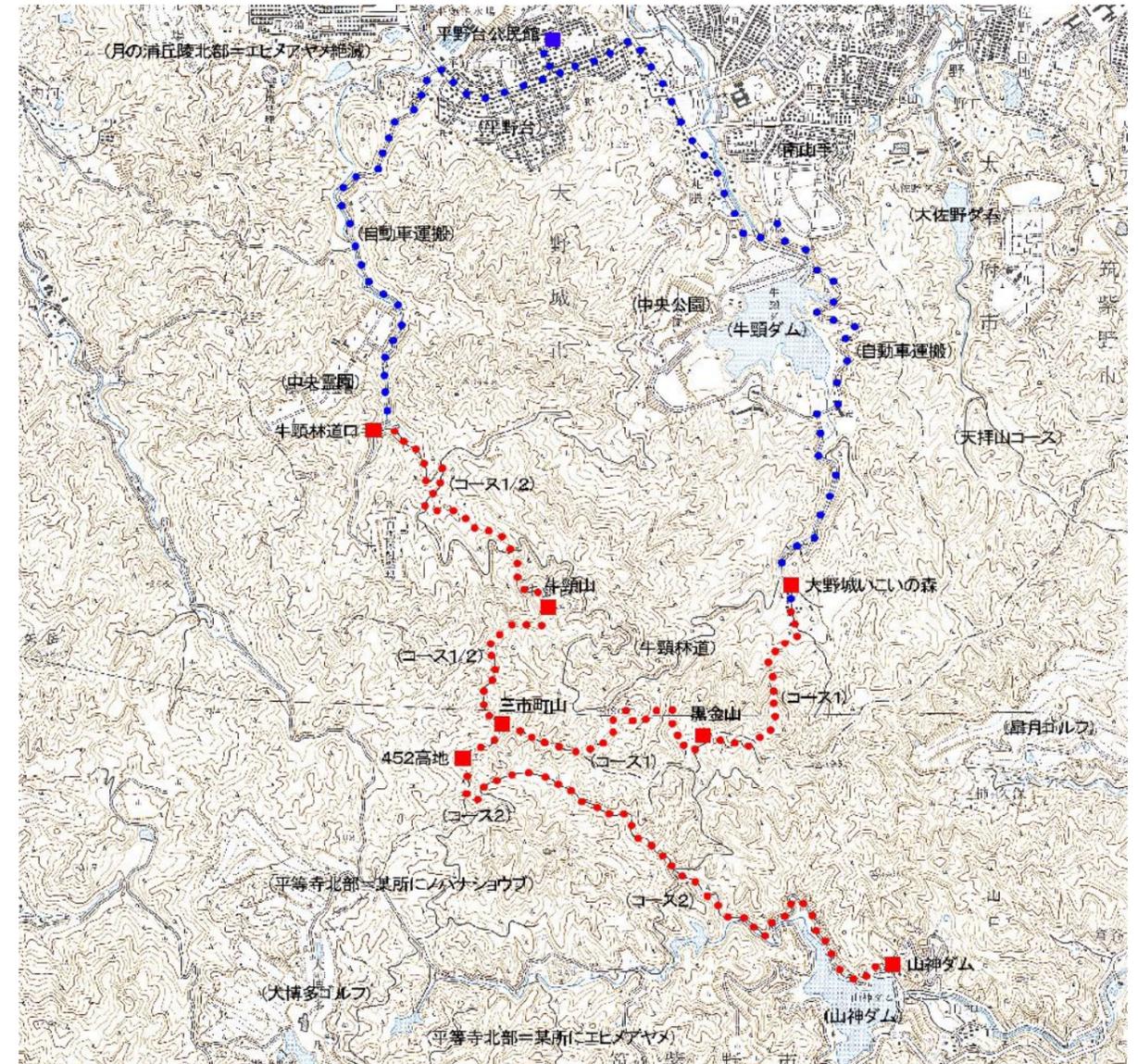
(作成)平野台2丁目 北敏幸

概要 牛頸山(447m)は、福岡と佐賀県を区画する脊振山域の一部で天拝山(257m)の西に連なり、西域は那珂川の上流に落ち北は筑紫の平野に南は山口川に限られる。山域の一帯は、花崗岩の風化した丘陵状高原で、峰低く、谷浅い一区をなしているが、概して北側において勾配が急で谷も深くなっている。牛頸山は、ほぼその中央にあり、大野城の最高点であるが、付近には同高度の峰が多く互に尾根を連ね、いずれも特別に独立した山体を形成していない。北側(大野城側)山域の特色は、高原状であって風化した砂岩の地味はやせ、ヒノキの造林が多く、特徴的な自然植生は少ない。林業用の細い道が縦横に通じて迷路が多く、登山道をはなれて細い道をとると多少の不安を覚えるが間もなく林道に出会い、浅い山であることがわかる。筑紫野と那珂川の境界をなす細い道を取り、452高地(452m)を越して尾根の藪道を西方の大博多ゴルフ場方面に下れば山口川支流の湧水源をなす湿原に至る。そこには初夏、艶やかなトキソウやノハナショウブの花が見られ、この世ならぬ美しさが楽しめる。牛頸丘陵地の北端に近い大野城環境処理センターから月の浦にかけての裾地(100~80m)には砂岩の白い崩壊裸地の間にアカマツが疎生し、特異な趣を副えていた。かつて使われた茅場の草地には四月末ころエヒメアヤメの可憐な花が見られた。エヒメアヤメはアヤメ科の小草で高さ10cm。アヤメに似た淡青紫色の可憐な美花を開く。中国東北部や朝鮮半島に多いが、日本では四国、中国、大分、福岡および佐賀の一部に僅かに自生するのみであり、ほとんどの場所で国の天然記念物に指定保護されている。月の浦団地造成の際、この植物の移植保護を大野城市に申請したが認められず、自生は絶滅。かろうじて確保された生体はいま、福岡市植物園と九州大学粕屋演習林に余命を保っている。それはもはや標本としての価値にとどまり、牛頸山を訪れる研究家を虜にしてきたエヒメアヤメの自然のままの姿はもう大野城になく、牛頸山ハイキングに花の時期をとくに求める必要がなくなった。ともあれ、牛頸山は大野城の最高点であることにいま昔も違いはない。

コース ハイキングコースとしては、昭和54年(1979)竣工した筑紫野山神ダムの水呑林道から林業用の細い道をたどり、筑紫野、大野城、那珂川の交界をなす三市町山(440m)に至り、ここから左手の尾根を登り、数個の小ピーク経て牛頸山頂の三角点に達するのが正面登山道であった。平成3年(1991)竣工した大野城牛頸ダムの牛頸林道は、牛頸山の山頂直下を通るため、これをハイキングコースの一部に利用する人が多くなった。新聞連載ふくおか無名山の「牛頸山・黒金山」探訪。牛頸区主催「牛頸山歩き」やインターネットの「牛頸山・黒金山」記録はほとんどが牛頸林道をコースの一部に用いていて、コース3である。452高地や三市町山に付けられた名札は、この山域に学術調査をしばしば行われた井上武先生(筑紫野市・小学校校長)が付けられたもので、先生はたびたびのテレビ出演でもスライドを用いてコース紹介をされるくらい熱心に取り組まれた。大博多ゴルフ場湿地のノハナショウブや牛頸山南方平等寺エヒメアヤメの保護などに多くの功績を残された。ハイキング程度の装備で催行可能なコースは次の4つである。

1. 牛頸林道口 ~ 牛頸山 ~ 三市町山 ~ 黒金山 ~ 大野城いこいの森
2. 牛頸林道口 ~ 牛頸山 ~ 三市町山 ~ 452高地 ~ 水呑林道 ~ 山神ダム
3. 大野城いこいの森 ~ 黒金山 ~ 三市町山 ~ 牛頸山 ~ 牛頸林道 ~ 大野城いこいの森
4. 牛頸林道口 ~ 牛頸山 ~ 三市町山 ~ 452高地 ~ 林業用細道 ~ 大博多ゴルフ場

地図 不入道(国土地理院 1/25000)



コース1:牛頸林道口~牛頸山~三市町山~黒金山~大野城いこいの森



“牛頸林道”入口ゲート(コース始点)
(標高=230m)



“牛頸林道”から“牛頸山登山口”
(標高=350m)



“牛頭山”山頂(大野城の最高点)
(標高=447m)



“牛頭山”山頂から“筑紫の平野”遠望



“黒金山”山頂
(標高=405m)



“大野城いこいの森”(コース終点)
(標高=230m)



“牛頭山”縦走尾根から“三市町山”遠望
(昔はこの辺にマツタケがあった)
(標高=430m)



“三市町山”山頂
(標高=440m)



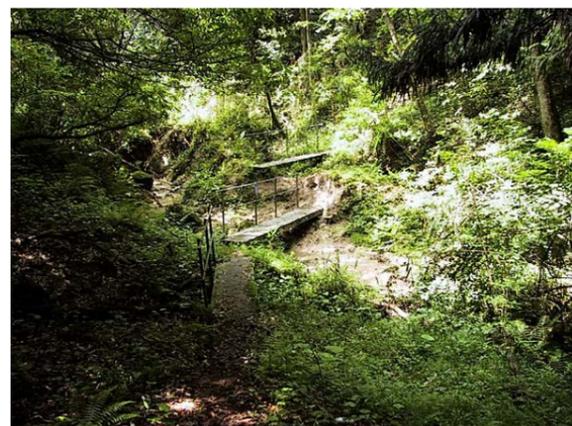
“452高地”山頂(コース全体の最高点)
(標高=452m)



“452高地”の藪道から“水呑林道”の降下点
(標高=400m)



“三市町山”から“黒金山”遠望



“三市町山”縦走路の谷筋(趣き良好)
(標高=380m)



“水呑林道”(平等寺北部へ抜ける大型林道)
(標高=400~220m)



“山神ダム”(コース終点)
(標高=220m)